

国立大学法人新潟大学 中期目標

平成28年3月1日提示
平成29年3月21日提示
平成30年3月26日提示
平成31年3月26日提示
令和2年3月19日提示

国立大学法人新潟大学 中期目標

(前文) 大学の基本的な目標

新潟大学は、高志の大地に育まれた敬虔質実の伝統と世界に開かれた海港都市の進取の精神に基づいて、自律と創生を全学の理念とし、教育と研究を通じて、人類の知の継承・創造につとめ、世界の平和と発展に寄与することを全学の目的とする。

この目的を実現するために、新潟大学は、人文社会科学、自然科学、生命科学全般にわたる教育研究を行う大規模総合大学として、多様な価値観を共有できる有為な人材の育成と特色のある研究、融合的研究の推進に全力を尽くす。そして、日本海側ラインの中心新潟にあるという本学の特色を活かし、新潟からアジア、世界に発信するネットワークを構築し、国際的な広がりを持った地域創生に寄与する。

新潟大学は、人材育成目標を踏まえて教育課程を抜本的に見直した学位プログラムによる教育を深化させる。学士課程においては教養教育と専門教育が融合した教育を行い、地域に根ざし世界で活躍できる課題発見・解決能力に富んだ職業人を養成する。大学院においては時代の要求に即応することのできる、より進んだ学際的な教育と研究を行い、チャレンジ精神に満ちた高度の専門的職業人及び研究者を養成する。また、優秀な留学生や学び直しを望む社会人にも広く開かれた大学を目指す。

研究面では、脳研究など世界トップレベルにある分野をはじめ、強み特色のある研究を推進することによって、大学全体の研究力を高める。こうした教育研究活動の活性化を実現するために若手研究者、女性研究者、外国人研究者など多様な人材を登用する。

新潟大学は、新潟県・近隣諸県、農業など地域の特色ある産業との連携プラットフォームを構築して、地域課題の解決に向けてのグローバルな取組を展開し、地域の活性化を牽引する。そして、質の高い健康長寿社会の形成を目指し、高齢社会が直面する様々な問題の解決に資する研究に力を尽くす。医歯学総合病院では、地域医療に貢献するとともに、高度専門医療人の養成と先進的医療技術の開発を行い、日本海側ラインの基幹病院として、最高・最先端の医療を持続的に提供する。

新潟大学は、上に掲げた目標に向かい、学長のリーダーシップの下、全学をあげて邁進する。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成28年度から平成33年度の6年間の第3期中期目標の期間とする。

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表1に記載する学部、研究科等及び別表2に記載する共同利用・共同研究拠点及び教育関係共同利用拠点を置くものとする。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

- ・新潟大学は、日本海側ラインの中心新潟にある大規模総合大学の特色を活かし、学士課程において教養教育と専門教育が融合した学位プログラムを深化させ、地域課題など現代の複雑な課題を解決できる、専門分野に立脚した人材、幅広い分野に適応する能力と専門知識を兼備した人材を育成する。
- ・地域に根ざし世界で活躍できる課題発見・解決能力に富んだ人材を育成するために、主体性を重視した教育課程を整備し、学生の自律的な学修を強化する。
- ・大学院教育課程において、チャレンジ精神に満ち、高い専門性と汎用的かつ実践的能力を有する高度の専門的職業人及び研究者を養成するため、学位プログラムを継続的に改善し、時代の要求に即応することのできるより進んだ学際的な教育研究を行う。
- ・新潟に基軸を置き、アジア、世界で活躍するために必要となる異文化理解能力を備え、社会の国際化に柔軟に対応できる人材を育成する。
- ・授業科目における学修成果をより正確に保証するために、各教育プログラムの成績評価を改善する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

- ・学生の主体性を重視した教育課程への転換に合わせ、各教育プログラムにおける授業科目を円滑かつ適切に開設する体制を整備する。
- ・人材育成目標に対する学修成果の評価により、学修の質を保証する新たな体制を整備する。
- ・能動的学修の拡充、学事暦の柔軟化及びソリューション志向型人材育成を目的とする新たな教育システムの導入を円滑に行うため、教育支援体制を整備する。
- ・全学的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を活性化し、教職員の教育能力を向上させる。
- ・佐渡島の森，里，海の世界自然豊かな環境の中に位置する本学の施設を活用した実践的・融合的な教育を活性化させる。

(3) 学生への支援に関する目標

- ・一万を超える学生を抱える本学において、多様な学生の向学心と主体性を支え、安心して学生生活を送れるように、学習支援、健康面での支援及び経済的支援を充実させる。
- ・学生の主体性を重視し、満足度を高める進路・キャリア形成支援を実施する。

(4) 入学者選抜に関する目標

- ・課題の発見と解決において重要となる「学力の三要素」（知識・技能，思考力・判断力・表現力，主体性・多様性・協働性）を含む人材育成目標に対応した入学者受入方針の改善と入学者選抜制度への転換を行う。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ・脳疾患に関する国内有数の研究施設である脳研究所を中心に、基礎と臨床の一体化を基盤とした先端的かつ高度な脳疾患研究・医療を実践する国内・国際共同研究拠点を形成する。
- ・特定分野における先端的研究，強み特色のある研究を重点的に推進し，優れた成果を発信する研究拠点を形成する。
- ・学問（研究）の自由を保障し，自然科学から人文社会科学にわたる幅広い分野の基礎・応用研究力をより強化するとともに，分野を超えた融合研究を創出する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ・若手研究者が主体的に課題を設定し，挑戦的な研究に取り組むことができるように，研究者の育成・支援のための体制を整備し，国内外から能力の高い若手研究者を確保する。
- ・研究の質を向上させるとともに，社会からの要請等に柔軟に対応できる研究支援体制を構築する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

- ・日本海側ラインに位置する大規模総合大学の特色を活かして，「環東アジア地域教育研究機構」を設置し，地域課題をグローバルな視野から検討・提言するとともに，新潟県を中心とした日本海側の地域活性化，地域創生に取り組む。
- ・社会人の学び直し及び職業人のキャリアアップの機会を広く提供することにより，社会の多方面で活躍しうる人材を育成する。
- ・地域の教育拠点として，新潟県教育委員会及び関係諸機関とのネットワークの中核的役割を果たし，地域における教員養成及び教員研修の機能を強化する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

- ・環東アジア地域を基点に世界を見据え，教育，研究及び社会貢献を通じて世界の平和と発展に寄与するため，キャンパス・グローバリゼーションを実現する。

(2) 大学間連携による教育・研究等に関する目標

- ・国立六大学連携コンソーシアム（千葉大学，新潟大学，金沢大学，岡山大学，長崎大学，熊本大学）をはじめとした他大学との連携を推進し，教育・学術研究・社会貢献等の機能を一層強化するとともに，グローバル社会をリードする人材を育成し，学術研究を高度化させる。

(3) 附属病院に関する目標

- ・「患者にやさしい高度医療」を推進することにより，超高齢社会や健康長寿社会の形

成を見据えた医療の実現に貢献する。

- ・グローバルな視点やリサーチマインドを備え、高度先進医療・地域医療においてリーダーシップを担う高度専門医療人を養成し、日本海側ラインの拠点を形成する。
- ・治験拠点医療機関としての高い取組実績を活かして、本学の持つ各分野の研究能力・実績を実践医療につなげ、医療イノベーションの創出に貢献する。
- ・多彩な地域医療貢献の実績を活かして、新潟県の地域医療構想（ビジョン）を踏まえた地域医療連携を強化するとともに、大学病院としての機能を果たすため、継続的・安定的な病院運営を行う。

(4) 附属学校に関する目標

- ・大学・学部・附属学校が連携して、社会的に求められる附属学校の役割・機能を発展させる。
- ・学生の実態に応じた段階的教育実習カリキュラムを構築し、附属学校の教育実習機能を強化する。
- ・教育委員会と組織的に連携しながら、現職教員の研修の場としての役割を強化する。
- ・グローバル化、異校種連携・一貫教育、特別支援を必要とする児童・生徒の増加など、国及び地域の教育課題について、附属学校として実験的・先導的な教育研究活動を行い、地域における指導的学校あるいはモデル校としての役割を果たす。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

- ・大学の強みや特色を最大限発揮するため、学長のリーダーシップの下、経営戦略本部を中心にエビデンスに基づく経営戦略を策定し、人的資源・物的資源・資金等の機動的な配分を行う。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

- ・社会の変化や社会からの大学に対する要請に適切に対応するため、学位プログラムを中心とした柔軟かつ機動的な教育研究組織に再編する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

- ・事務職員の資質向上や事務等の効率化及び合理化を行い、大学経営と教育研究等の支援機能を強化した事務組織へ再構築する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

- ・外部資金獲得のための支援組織を強化・拡充し、戦略、企画、渉外、広報等の専門性を高めることによって、外部資金獲得額を増加させ、財務基盤を安定化させる。

2 経費の抑制に関する目標

- ・戦略的・効率的な大学運営を実施するため、IR を活用し、学長のリーダーシップに

基づいて優先度の高い事業に重点支援を行うとともに、全体の経費を計画的に抑制する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

- ・保有資産の利用状況等を踏まえた管理・運用の見直し等により、資産を効率的・効果的に活用する。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

- ・IR を活用した評価体制を整備し、自己点検・評価及び第三者評価等を適切かつ効率的に行い、教育研究や大学運営等の改善、活性化に繋げる。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

- ・情報公開を徹底して透明性を高めるとともに、社会のニーズに対応した教育研究活動の発信により、大学への信頼・イメージ・魅力を高める。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

- ・安全・安心で魅力的なキャンパス環境になるよう、老朽施設・ライフラインの再生整備、既存スペースの有効活用、エネルギー使用量の削減を推進し、適切な施設マネジメントを実施する。

2 安全管理に関する目標

- ・新潟県や近県で発生した過去の自然災害への対応・経験を活かし、キャンパスや地域社会にとって安全・安心な環境を整備する。

3 法令遵守に関する目標

- ・健全で適正な大学運営を行い、社会から信頼される大学であり続けるため、研究不正防止等のコンプライアンスを推進する体制及び環境を整備充実させ、本学の全ての活動においてコンプライアンスを徹底する。

別表1 (学部, 研究科等)

学 部	人文学部 教育学部 法学部 経済学部 (R 2 募集停止) 経済科学部 (R 2 設置) 理学部 医学部 歯学部 工学部 農学部 創生学部
研 究 科	教育実践学研究科 現代社会文化研究科 自然科学研究科 保健学研究科 医歯学総合研究科

別表2 (共同利用・共同研究拠点, 教育関係共同利用拠点)

<p>【共同利用・共同研究拠点】 脳研究所</p> <p>【教育関係共同利用拠点】 佐渡自然共生科学センター演習林 佐渡自然共生科学センター臨海実験所</p>
--